

新庄の人気者「どべ」

昔から新庄の子供たちはどべをはやし立てて怒らせて、逃げ回ることを楽しみにしていました。どべも子供を見るとなぎなたを振りかざしながら驚かそうと近寄つていきました。子供が怖がって逃げても追いかけて来ますが、最後には頭を撫でてくれます。昔から小さな子供がどべに頭をなでられると「病気にならない、頭が良くなる」といわれ、春祭りにはお母さんたちは我が子を撫でて貰いたくて、どべが来るのを待ちにしています。どべは大人から子供までみんなの人気者です。

「どべ」は「猿田彦神」という神様です。

さて、では「どべ」とは何者でしょうか？実は古事記や日本書紀という日本の神話に登場する猿田彦神（さるたひこのかみ）という神様です。猿田彦神は天照大御神の孫である「ににぎの命」という神様がこの日本の国に天界から降りてこられるときに、道案内をした国津神（元々日本の土地にお住まいになっていた神様）です。神話には猿田彦神の事をとても恐ろしく怪しい姿であったことが以下のように書かれています。

「どべ」は交通整理のおまわりさん

「どべ」のお仕事は神様の道案内人と、悪い神、邪鬼からおまもりすることです。春祭りは新川神社の神様が年に一度、新庄村の家庭訪問をされる日です。みんな元気に暮らしているかな、まじめに生きているかな？と様子を見に来られます。その神様の行かれる道を行く手をじやますするものがあればそれを祓いよけるのがどべの仕事です。怖い顔をしていますが本当は優しい心をもつた、正義の神様なのです。

「どべ」の語源

なぜ「猿田彦神（さるたひこのかみ）」が「どべ」と言うようになったのかはわからないのですが、ある説には「どめん（土面）」が、いつのまにか短くなつて「どべ」になつたのではないかと言わっています。今のどべの面は木の彫り物で土面ではありませんのが、昔は土面だったのかもしれません。

「鼻が長く、背が高く、口のはしが明るく光つていて目は鏡のように光り輝いて赤ほおずきに似ている。上は高天原を、下は葦原中國を明々と照らし、その光が鋭くどの神様も恐ろしくて近寄れませんでした。」

これを元にして新庄の昔の人が考えられたのが今のどべの前面と装束です。



平成二十八年 新庄鎮座四百年記念大祭斎行

奉祈 天壤無窮 五穀豊穣 天下泰平

新川神社

新川神社 宮司 船木信光
〒九三〇一〇九九一
富山県富山市新庄町二丁目十三番四十七号
電話・ファックス〇七六一四四一八八六

